

# 霞ヶ浦とともに歩んできた町、土浦

## その歴史とこれからの

### ぼくたちができること



真鍋小学校 六年 前田 開

子ども郷土研究は、調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、郷土「つちうら」への理解を深めることを目的に実施しています。今回は25点の応募作品の中から最優秀賞に選ばれた作品をご紹介します。（一部省略）

応募全作品は2月21日(日)まで上高津貝塚ふるさと歴史の広場で展示しています。

■上高津貝塚ふるさと歴史の広場(☎826・7111)

#### ●研究の動機

ぼくは、おとこの夏休みに、市内の小学生を対象にした霞ヶ浦の水質調査に参加しました。現在の霞ヶ浦は、昔に比べると透明度が大きく下がってしまっていて、とても汚れていることが分かりました。また、その年の秋に霞ヶ浦検定に挑戦し、ジュニア級を取

得しました。霞ヶ浦検定の勉強をしていく中で、昔の霞ヶ浦はもともと海の入江だったことや、江戸時代にはたくさん船が走っていて水運として利用されるなど、ぼくたちのくらしに深く結びついていたことを知りました。そこで、時代を通して霞ヶ浦がどのようにに変化していったのかを調べてみたいと強く思い、この研究に取り組むことにしました。

#### ●研究の方法

- ①市立博物館に行って調べる。
- ②霞ヶ浦環境科学センターに行って

調べる。

- ③市立図書館で霞ヶ浦の歴史について書かれた本を調べる。
- ④実際に霞ヶ浦に行き、歴史を伝える史跡などがなくないか調べる。

#### ●研究の内容

【1】霞ヶ浦の成り立ちと名前の由来  
霞ヶ浦は、日本で二番目に広い湖です。その大きさは琵琶湖(滋賀県)に次いで、2200・0平方メートルあります。千年以上前は、太平洋が関東平野に入り込む内海で、「流海」や「流逆の海」と呼ばれていました。現在では淡水湖ですが、江戸時代前期(17世紀)まではまだ海水が流れていて、「内の海」や「霞の浦」といった名前が記録に残されています。

#### 【2】原始時代の霞ヶ浦

ここからは、霞ヶ浦の歴史とぼくたちの生活との関わりについて、時代順に見ていきます。

縄文時代になると、気候の温暖化で海水面が上がり、関東平野にまで海水が浸入するようになります。これによって、霞ヶ浦は大きな入り江のような形となったことが分かります。上高津貝塚や広畑貝塚では、塩づくりが行われていたことが分かっています。霞ヶ浦の周辺は、日本で最も古い塩づくりが確認できる地域として重要です。

#### 【3】古代から中世の霞ヶ浦

「流海」「内海」と呼ばれたとあり、霞ヶ浦にはまだ海水が入り込んでいました。大きな入り江の一部で、今より2〜3倍の広さだったといえます。市内の田村・沖宿遺跡群では、平安時代(9〜10世紀)のむらの跡が見つかりました。ここからは、三彩や二彩陶器、銭貨など、都のある畿内(近畿地方)産と考えられるものが多く出土しています。常陸国ではめずらしい品々は、霞ヶ浦の水系を利用して遠方から運ばれてきたと考えられます。

#### 【4】近世の霞ヶ浦

利根川は、古くから「坂東太郎」と呼ばれた暴れ川でした。江戸時代に入ると、当時は東京湾に流れ込んでいた利根川を、銚子口千葉県へ通して太平洋に流す大規模な付け替え工事が行われました。これにより霞ヶ浦沿岸の地域は、利根川から江戸川を経て江戸と結ばれることになりました。このような水運の発達を支えたのが高瀬船でした。高瀬船は底が平らなので、水深の



霞ヶ浦環境科学センターからみた霞ヶ浦



上高津貝塚にて

浅い霞ヶ浦を航行しても川底に当たらない構造となっていました。そのころ、水戸街道(現在の国道6号線、354号線)も整備され、土浦は水陸交通の



川口川のあった場所(モール505)

重要な拠点として、物資や人・情報が集まる場所になっていきました。

江戸時代の霞ヶ浦は、水運の発達や水田開発で大いに潤ったのですが、ここでマイナスの影響も見ておきたいと思えます。それは、霞ヶ浦沿岸で水害がしばしば起こるようになったことです。付け替え工事で流入した土砂に加え、浅間山噴火などの火山灰も重なり、洪水の時にあふれた水が海に流れにくくなってしまったことが一番の原因でした。

【5】近代の霞ヶ浦

明治時代に入ると、時代の近代化が霞ヶ浦にもおよびようになりました。1871(明治4)年には、蒸気船「利根丸」、1877(明治11)年には外輪蒸気船「通運丸」が出航しました。

さらに、昭和期にはディーゼルエンジン船の「あやめ丸」、「さつき丸」も登場し、観光に大きな役割を果たしました。

近代の土浦の町は水戸街道沿いが中心で、中心には川口川が流れていました。泳ぐことができた上、ホテルも見られたなど、川の透明度は今の霞ヶ浦からは考えられないくらい高かったようです。昭和時代に川口川の埋め立て工事が始まると、水路は徐々に道路に変わっていききました。当時の川口川が流れていたのは現在のモール505商店街の辺りだったそうですが、その場

所でホテルが見られたこととてもおどろきました。

【6】現在の霞ヶ浦

第二次世界大戦後の茨城県では、筑波研究学園都市、鹿島臨海工業地帯、常磐線沿線の住宅地造成などの都市化、工業化が急速な勢いで進みました。しかし、住宅や工場などが増え、人間の活動が活発になるとどうしても水を汚してしまいます。ぼくは、小学四年生の時から合計4回霞ヶ浦の水質調査に参加しています。湖はここにおいて、所々でアオコが浮いていたのが今でも

強く印象に残っています。

●まとめと感想……………

今回の研究で、ぼくは霞ヶ浦の移り変わりを時代を追って調べました。海の入江だった霞ヶ浦が変化していく背景や、水運によって大都市である江戸と結ばれた土浦が発展していく様子を学ぶことができました。

ぼくの祖父は、子供のころ霞ヶ浦で泳いだと聞きました。ぼくたちの手でいつかそのような霞ヶ浦を取り戻したいです。

■最優秀賞				
霞ヶ浦とともに歩んできた町、土浦 ～その歴史とこれからのぼくたちにできること～	真鍋小	6年	前田	開
■優秀賞				
水害と戦った人々の暮らし～水の町・土浦～	土浦小	5年	菊地 郁帆 木村 梨梨 栗原 佐和	いほりり あいらい あいらい
土浦市沖宿町の歴史2～かすみヶ浦と沖宿町～	上大津東小	5年	山口 優一	ゆういち
「日本一のレンコン」になるまで	上大津西小	3年	大久保 佳音 大久保 美咲 沖山 幸希 木村 花音 照屋 竜騎 中島 伶 羽鳥 優菜	かのん かみき ゆき はなね りゅうき れい ゆうな
予科練生と土浦～町と人のつながり～	右 粉 小	5年	沼尻 泰輝	たいき
土浦城のあった時代には時刻がわかったのかな？ ～櫓門の刻の太鼓～	菅 谷 小	4年	川村 航平	こうへい
私の住んでいる本郷の新発見！ ～昔は石がとれていた～	山ノ荘小	3年	山川 真楓	まなか
■優良賞				
土浦祇園祭のルーツにせまる よみがえる江戸の にぎわい	土浦小	5年	青柳 穂花	ほのか
土浦の水害の歴史	土浦小	5年	沼田 義弘	よしひろ
土浦城はどんなところだったのか	土浦四中	2年	杉山 里佳	りか
土浦の古墳時代	土浦四中	2年	寺門 穂光 吉田 七海 坂入 聖菜	ほつみ ななみ せいな
■努力賞				
土浦市の桜川に架かる橋	土浦小	6年	蛭名 輝	ひかる
土浦城	荒川沖小	3年	佐藤 耀太郎	ようたろう
土うら海ぐんこう空たい(よ科練)の空しゅう	土浦二小	3年	関谷 譲	じょう
土浦城の歴史 誕生から現在	上大津東小	4年	鶴田 真世	まよ
二宮金治郎の謎	神立小	6年	佐々木 龍世	りゅうせい
真鍋のはじまりと土浦二中のはじまり	土浦二中	3年	張 旭斗 仲澤 優斗	あきと ゆうと
		2年	伊藤 北平 久米 耕真 田口 真代 小林 俊介	きたへい こうま まこと しゅんすけ
■学校賞/土浦小学校				